

氷見市議会企画総務委員会会議録

令和3年9月10日（金）

氷見市庁舎議事堂委員会室

開会 午前 9時59分

閉会 午前11時43分

- 1 案 件 令和3年9月定例会において企画総務委員会に付託されたもの
- 2 出席委員 6名
積良委員長、竹岸副委員長、正保委員、萩山委員、谷口委員、嶋田委員
- 3 委員外議員 小清水副議長
- 4 職務のため出席した事務局職員 串田事務局長、舛田事務局次長
- 5 説明のため出席した者の職、氏名
林市長、篠田副市長、東軒企画政策部長、萩原秘書広報課長、高野地方創生推進課長、粟屋地域
振興課長、森田総務部長、中尾総務課長、出戸財務課長、三島税務課長ほか関係職員
- 6 傍 聴 人 2人
- 7 付 託 議 案 別紙付託案件表のとおり
- 8 経過及び結果
 - ・積良委員長が開会を宣告し、市長挨拶の後、議事を進行した。
 - ・当局の説明を受け質疑応答を行った結果、いずれの案件も全会一致をもって原案を可とすることに決した（主な質疑応答は別紙のとおり）。
 - ・委員会報告の作成は委員長に一任され、特筆事項は無しとした。

氷見市議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

令和3年9月10日

氷見市議会企画総務委員長

積良 岳

令和3年9月企画総務委員会付託案件表

令和3年9月10日(金)午前10時

氷見市庁舎議事堂委員会室

- ◎ 秘書広報課 9:59~
 - ・ 議案第54号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第5号)中
秘書広報課所管に関する事項……………説明書P 8
 - ・ 議案第61号 氷見市有線テレビジョン放送条例
の一部改正について……………議案書P 27

- ◎ 地方創生推進課 10:10~
 - ・ 議案第54号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第5号)中
地方創生推進課所管に関する事項……………説明書P 8

- ◎ 地域振興課 10:31~
 - ・ 議案第54号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第5号)中
地域振興課所管に関する事項……………説明書P 18

- ◎ 総務課 10:50~
 - ・ 議案第54号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第5号)中
総務課所管に関する事項……………説明書P 24

- ◎ 税務課 11:16~
 - ・ 議案第60号 氷見市過疎地域の持続的発展のための市税の特別
措置に関する条例の制定について……………議案書P 24

- ◎ 財務課 11:20~
 - ・ 議案第54号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第5号)中
財務課所管に関する事項……………議案書P 1
 - ・ 議案第62号 氷見市過疎地域持続的発展計画の策定について……………議案書P 29
 - ・ 報告第19号 地方自治法第179条による専決処分について……………議案書P 31

(注) 一般会計における給与費は総務課、繰出金は財務課の所管です。なお、財源補正及び節区分補正に係る説明は不要です。

主な質疑応答

<p>秘書広報課 萩山委員</p>	<p>情報通信管理費について。 ファイヤーウォールを更新されるが、外部から攻撃を受けたことはあったか。最近頻繁にあると聞くが。</p>
<p>萩原課長 西中主幹</p>	<p>過去にはあったがブロックしている。 県及び15市町村で共通のインターネット回線を使っている。富山県セキュリティクラウドについて、考えうるすべての対策をとっており、被害はない。</p>
<p>地方創生推進課 萩山委員</p>	<p>農業遺産活用事業費について 寄付を受けたこの倉庫を活用するビジョンはあるのか。</p>
<p>高野課長</p>	<p>女良地区はワカメ養殖栽培が盛んなので、体験に訪れた方に見ていただきたいり、定置網漁業の変遷を勉強できるような場所としたい。</p>
<p>萩山委員</p>	<p>体験しにくるような人はいいが、観光の人に、県境までわざわざいってもらわなければならない。</p>
<p>高野課長</p>	<p>近くにある文化財センターに来た人にお知らせをしたり、観光協会と連携して紹介できるような仕組みをつくっていききたい。</p>
<p>萩山委員</p>	<p>その文化財センターには何人来ているのか。</p>
<p>高野課長</p>	<p>把握していない。</p>
<p>萩山委員</p>	<p>保存することは結構だし市が活用しようとするは前向きで評価できる。宝の持ち腐れにならないようにしてほしい。先日、湊川の倉庫が文化的な施設として指定された。観光客が回遊できるエリアとして市民会館跡地にこの倉庫を移築すれば、一体的な雰囲気も醸成される。お金のかかる話だが、有効に活用できればと思うがどうか。</p>
<p>高野課長</p>	<p>建物が古いので移築が可能か、場所も含め検討してみる。</p>
<p>萩山委員</p>	<p>寄付されるからといって、市はもらうだけでなく、その活用を考えてもらいたい。</p>
<p>林市長</p>	<p>この倉庫が壊されると伺い、建築家をはじめ専門家から是非、市で活用してはといった意見もあり、持ち主に相談し、快く寄付していただくこと</p>

<p>谷口委員</p> <p>高野課長</p> <p>谷口委員</p> <p>高野課長</p> <p>谷口委員</p> <p>高野課長</p>	<p>になった。女良漁港内にあるため、海拔が低く常設でいろいろなものを展示するのは難しい。まちなかにある方がいいのか、あのまま漁港内にあった方が歴史や背景がわかる部分もあるのでいいのか、いろんなことを想定し、最大限活用できるよう検討していく。</p> <p>〈付託案件外〉</p> <p>市民アンケートについて</p> <p>今、市民アンケートが配布されている。林市政1期4年間の取り組みの成果や反省を踏まえて行われるべきと考えるが、どのように検討されたのか。</p> <p>総合計画の策定にあたって、6月議会で承認された基本構想に沿って伺っている。これまでを検証したものはない。</p> <p>アンケートを3,000名に出したとのことだが、これからの氷見市のため、若い人の意見が重要と考える。どのように選んだのか。</p> <p>人口比率により3,000名を無作為に抽出した。ウェブから回答できるようにして若い人も回答しやすいようにした。</p> <p>若い人の意見を大切にしてほしい。高齢者には難しい設問もある。市民要望といった形の方がよかった。議会への報告はあるのか。</p> <p>結果が出れば報告する。</p>
<p>地域振興課</p> <p>萩山委員</p> <p>栗屋課長</p> <p>萩山委員</p> <p>栗屋課長</p> <p>萩山委員</p>	<p>危険老朽空き家対策事業費について。</p> <p>2つのパターンがあると聞いたが累積の件数を教えてほしい。</p> <p>危険老朽空き家の解体実績は、平成30年度が3件、令和元年度が2件、令和2年度が1件。危険老朽空き家の対策補助金は、平成30年度が6件、令和元年度が7件、令和2年度が10件となっている。</p> <p>市で把握している危険老朽空き家の数値は持っているのか。</p> <p>把握していない。</p> <p>危険老朽空き家の対策は持ち主に主体を委ねていて、申請があれば受ける事業と聞く。行政としてどれだけあるのか把握すべきだし、解消に向け、事業を周知していくことが大事である。補助金のことを知らないで着手した場合は対象となるのか。</p>

粟屋課長	<p>国の事業でもあり、交付申請して決定を受けたものが対象となる。</p> <p>周知については、広報でこんな事業がありますよといった紹介や相談に来られた方に説明している。8月からは、新たにホームページを立ち上げ、広報では制度の詳細をPRしていきたい。</p>
萩山委員	<p>事業の周知が大切である。不公平感が生まれないようにお願いしたい。広報にホームページ、あと一つ大事なものがあると思うが篠田副市長に聞きたい。</p>
篠田副市長	<p>テレビ（サンデーひみ）ですか。機会を見て検討したい。市の持っているすべてのメディア、広報やホームページ、ケーブル、LINEなどで接触ポイントをつくるのが大事ですので、検討していく。</p>
嶋田委員	<p>〈付託案件外〉</p> <p>氷見市文化振興財団について</p> <p>本会議で越田議員が質問した「財団職員の募集について」に対し、篠田副市長からは「開館準備を進めるにあたり、やることは山積みで、人材を早期に確保する必要があるとの判断から、総務管理グループのチーフ1名を来年1月に採用することとし、現在、その公募を行っているところである。1名分の人件費は、当初にはなかったが、予算の範囲内で対応する」との答弁であった。今年度の現4名スタッフで想定されていた業務は何で、何の業務がどれだけ増えたのか。未消化の予算があるからといって、人を雇うという予算執行の考えがあっているのか、疑問を持たざるを得ない。そこで、財団の令和3年度の事業計画や予算、執行状況を伺いたい。</p>
東軒部長	<p>業務は貸館の日程の設定や、使用方法・調整方法、施設管理の業者選定や防災対策、舞台設備の選定などをやっている。また、1名は市からの出向者がいるので、文化芸術振興事業、アウトリーチ事業を行っている。</p> <p>予算はほとんどが人件費で3,517万3千円、執行状況は7月末で840万9千円、執行率は24%となっている。</p> <p>スタッフ1名分の人件費の財源については、新規4名のうち1名を主任クラスと想定していたが、若くて優秀な主事クラスの人が入ってきたため、財源が出来た。</p>
嶋田委員	<p>これからは5名体制となるが、いつまでこの体制か。</p>
東軒部長	<p>来年1月から3月まで5名体制となる。全員で9名体制と考えており、来年4月から4名増やすために1月から募集し、4月には9名体制となる。</p>

<p>嶋田委員</p> <p>東軒部長</p> <p>嶋田委員</p> <p>篠田副市長</p> <p>嶋田委員</p> <p>篠田副市長</p>	<p>令和4年度から人件費も増額となるのか。</p> <p>議会で説明した管理運営方針のとおり、当初は4人、将来的には10人程度と計画していたとおり動いている。</p> <p>利用率60%を目指すといっていたが、大ホールを使った率なのか、小部屋の利用も含めているのか。</p> <p>基本的には大ホールの利用と考えているが、大ホールを使うまでもない横の小さなスペースを使った美術展ということもあり得る。</p> <p>他の施設でよかった点など、学んだことはあるか。</p> <p>先日、長野県の茅野市に河出氏と行ってきた。同じ設計思想が流れている建物でも、人の動線や庭との関係をどうするのかといった使い方を教わってきた。氷見のチームに経験がないところは市民のためにホールをどう使うかで、茅野は圧倒的に進んでおり、ひとつずつ学んでやっていきたい。</p> <p>デザインは似ているが圧倒的に違うのは立地条件で、茅野は駅に直結しているのに対し、氷見は賑わいのないところなので、改めて課題を認識した。</p>
<p>総務課</p> <p>萩山委員</p> <p>中尾課長</p> <p>積良委員長</p>	<p>職員給与費について。</p> <p>ワクチン対応にあたった延べ人数は、11月までを含め、ワクチン接種業務により、今までにどれくらい負担増になったのか。</p> <p>人数のデータは持っていないので、後で資料を提出する。</p> <p>〈付託案件外〉</p> <p>行財政運営について</p> <p>本会議において上坊寺議員が、行財政運営について、令和2年度決算審査意見書における、監査委員の厳しい指摘事項に視点を置き質問したが、私から改めて職員数について何点かお聞きする。</p> <p>意見書の中で「総務省の類似団体別職員数の状況においても、本市の職員数は全国平均を下回っている」と述べられたことについて、森田総務部長からは、「氷見市は人口が5万人未満で、産業構造として、2次産業及び3次産業の割合が全体の90%以上かつ、3次産業の割合が65%未満」の分類に属しており、一般行政部門で、78団体中、人口1万人あたり職員数が、16番目に少ない団体であると」答弁された。</p> <p>また、職員数については、類似団体の平均を氷見市の人口に当てはめると氷見市の職員数は41人少なくなるが、これは、氷見市は公立保育園が</p>

	<p>少なく、ごみ収集も民間に委託しているため、人数は少なめに出ると答弁されている。</p> <p>そこで、企画総務委員会として、果たしてそうなのか、いろいろな視点に立ち調べることにした。</p> <p>まず、総務省が毎年、職員数や配置の実態を調査し、適正な定員管理の推進に資することを目的に、全国一斉で行われている定員管理調査の氷見市の数値について説明願いたい。</p>
中尾課長	<p>資料「部門別・組織別職員数一覧」に基づき説明する。</p> <p>一般行政の一般管理では議会が5名、総務企画で83名、税務で20名、労働で1名、農林水産20名、商工13名、土木40名、一般行政の福祉では民生が58名、衛生が24名で、あわせて一般行政は264名、特別行政は教育と消防で110名、公営企業は40名、合計で414名となる。</p>
積良委員長	<p>定員管理調査について尋ねたのは、本会議でも、氷見市は職員数が41人少ないとされた総職員数を比較する単純値方式を用いた方法のほかに、各部門別の平均職員数を用い、より具体的な比較ができる、いわゆる修正値方式により比較検討を行うため、定員管理調査の内訳をお聞きした。修正値方式により、部門別に類似団体との職員数を比較し、課ごとの職員数を当てはめてみると、一部を除き、ほとんどの部門で職員数が少なく、どの課で少ないのかもわかった。</p> <p>氷見市は、類似団体と比較し、どういった部門で特に職員数が少ないと認識されているのか。</p>
森田総務部長	<p>民生部門で23～4人が少ない。総務企画も10名ほど少なく、窓口が少ない。</p>
積良委員長	<p>ごみ収集や公立保育園部門が、職員数にどれだけの影響があるのか、この修正値方式で試算すると、保育園とごみ収集業務に係る職員数を除いた換算職員数は264.69人で、実職員数235人との差は、29.69人という数値が出た。</p> <p>単純値方式で41人少ないとされた職員数は、ごみ収集や公立保育園部門の影響を考慮しても、約30人、類似団体より少ないとわかった。</p> <p>確かに、人数は下がったが、まだ30人も少ないという実態は、ぜひとも認識していただきたい。</p> <p>類似団体との職員数の比較は、単純に人口や産業構造だけでは行うことは難しい面をあらうかと思うが、氷見市のように、面積が広く、谷ごとに集落が点在する形状においては、道路や河川のほか、災害復旧事業にも多くの技術職員が必要となること。監査委員の意見書の中でも、事業の見直しや業務内容の改善が進まない中、職員数を減らすことには限界があり、職員への負担が増すばかりでなく、市民サービスの低下につながりかねない</p>

<p>林市長</p> <p>積良委員長</p> <p>出戸課長</p> <p>中尾課長</p>	<p>いといった警鐘を鳴らしておられる。</p> <p>このあとの中長期財政見通しや行財政改革プランの策定に向け、監査委員の厳しい思いや、企画総務委員会としての意見を踏まえ、この職員数についての市長の考えをお聞きしたい。</p> <p>類似団体と比べ少ないのは、歴代の市長や職員が行政改革に取り組んだおかげで、筋肉質な体質になった。コロナ対策や冬には大雪、夏には大雨があり、必要などころに必要な人数がいる。市長に就任した平成29年と令和2年を比べると7人増えている。適正な人員配置に努める。</p> <p>中長期財政見通し及び行財政改革プランの取り組み状況と、今後のスケジュールについて説明を求める。</p> <p>中長期財政見通しは、社会環境の変化が激しい現状にあっては毎年見直している。令和2年度決算や普通交付額の決定を受け、様々な歳出を見込み作成している。10月には議会に説明できる。</p> <p>行財政改革プランは、名城大学の昇先生の助言をいただきながら方針をつくっている。10月に議会に説明し、10月25日に開催される市民懇話会で市民の意見を頂戴する。基本計画と実施計画を策定し、2月には委員会とパブリックコメントを実施して、最終案を議会に説明したい。</p>
<p>税務課 萩山委員</p> <p>三島課長</p>	<p>氷見市過疎地域の持続的発展のための市税の特別措置に関する条例の制定について。</p> <p>過疎に指定され、課税が免除された件数と金額はどのくらいか。</p> <p>今年3月までで8社あり、令和3年度で約4,000万円免除している。この額は交付税で措置される。</p>